


# 平成27年度食品健康影響評価技術研究成果発表会


はじめに






## 研究課題のねらい

-  食品健康影響評価において、肝臓の「絶対・相対肝臓重量の増加」を、直ちに悪影響(adverse)とする現在の判断を科学的見地から見直したい



そのために

-  具体的に悪影響と肝肥大作用を区別するための科学的な考え方を整理し、それをもとに科学的かつ一貫性のある評価を行うための基盤をまとめる

## 発表課題

-  核内受容体作用と酵素誘導解析を基盤とした、化学物質による肝肥大の毒性学評価に関する研究  
(主任研究者：吉成浩一 静岡県立大学)
-  化学物質により誘発される肝肥大の毒性学的評価手法の確立と今後の問題点  
(分担研究者：梅村隆志 国立医薬品食品衛生研究所)
-  肝マクロファージの機能特性に基づいた肝毒性の新規評価手法の構築と緻密化  
(主任研究者：山手丈至 大阪府立大学)

## 今後の方向性

-  どのような場合に、肝肥大を有害影響(adverse)あるいは有害影響ではないと判断するのか、関連する情報を研究成果から抽出
-  明確に有害影響ではないと判断するために必要な情報を具体的に整理する。  
さらに補足的に得られれば望ましい情報があればそれらも整理

きめ細かい評価が必要